WASON HQ 1104 J74+

Nov. 1893 710357

明治廿六年十一月十一日發兌

# 女學雜誌

第三百五十七號

女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

# 第三百五十七號目録

社説
經濟の道(中)
帳面に憲法あり
夫人獨斷整理の領地
經濟と道德とは双子
望みは救ひなり

兒籃
いわひ歌
第五曲(若松しづ子)

理學
地熱(けい子)

家故
子供につきて(曲れもの)
嚴に過ぐ。寛に過ぐ。
思ひ遣り、嚴格、方正
深切にしてお遣りなさい
嚴格方正になさい

雜錄
故大和田建樹夫人遺稿の一ふし
孝子のはなし
文士別に俗務を執るべし
遊獵と女子參政權
子の盲目たるは父の肉慾による
各地の霜と雪

史傳
ウイラード、其容色に痛憂す
堀部安兵衞の妻

女學
女子品性修養の學科(金澤女學校々長水蘆幾次郎)

書架
月修産婆學
日本のパウロ、日本の獨立女子教育家
井戸ばたの水しめ
記者としての婦女子
女學雜誌に與ふ(上毛新聞)
江原素六氏及三宅雄二郎氏

海外
七十二の老嫗、大博覽會場に毛糸を紡ぐ
一人は盲人、一人は女子
非凡なる視力
皇女、大博覽會を覽る
猫專門の閨秀畵伯

時報
高等女學校補助金◎婦人矯風會の建白と請願◎第二回頌榮女學校同窓會◎大坂婦人慈善會◎土佐婦人同志會◎田沼山梨縣知事◎妾宅税と婚姻税◎奇怪なる結社◎水戸◎八王子◎貞婦平井やす◎女子職業學校

# 發賣所　東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

碧海　内藤耻叟
魯齋　三輪文次郎　合著

## 一覽博識　漢學速成

●背革堅牢洋綴●合本全一册●紙數一千ページ
●正價七拾五錢●郵税拾四錢●郵券代用一割増

此書ハ經史諸子ノ要旨ヲ以テ上篇トシ内藤先生自ラ筆ヲ執リ古來諸儒ノ説ヲ輯錄シ卓越ノ持論ヲ以テ之ヲ裁斷シ讀者ヲシテ立ドコロニ其意ヲ得セシム又故事要語ノ詳ヲ下篇トス三輪先生之ヲ編纂シ凡ソ經史諸子ヲ始トシ古人ノ詩文隨筆及ヒ類書韻書ヨリ佛經語錄ニ至ルマデノ數千萬卷ヲ涉獵シテ其英ヲ摘ミ其要ヲ提シ明カニ出處ヲ示シ詳カニ解釋ヲ施シ之ヲ十五門百五十二類ニ分チ以テ看者ノ索引ニ便ナラシム苟モ此書ヲ讀マバ旬月ヲ出デズシテ漢學ノ要旨典故ヲ知悉スベシ速成ノ名豈ニ虚シカランヤ

◉漢學速成ハ尋常射利主義ノ一夜作ノ書ニアラズ
◉漢學速成ヲ讀メバ漢書萬卷ヲ讀ミタルモ同効也
◉漢學速成ヲ讀メバ無學者モ忽チ博識トナルヲ得
◉漢學速成ハ作文作詩及ヒ演説ノ資料ト爲ルベシ
◉漢學速成ハ歐文ヲ飜譯スルニモ亦必要ノ書ナリ
◉漢學速成ハ頗ル有益ノ書ニシテ極メテ廉價ナリ

花の屋胡蝶大人著

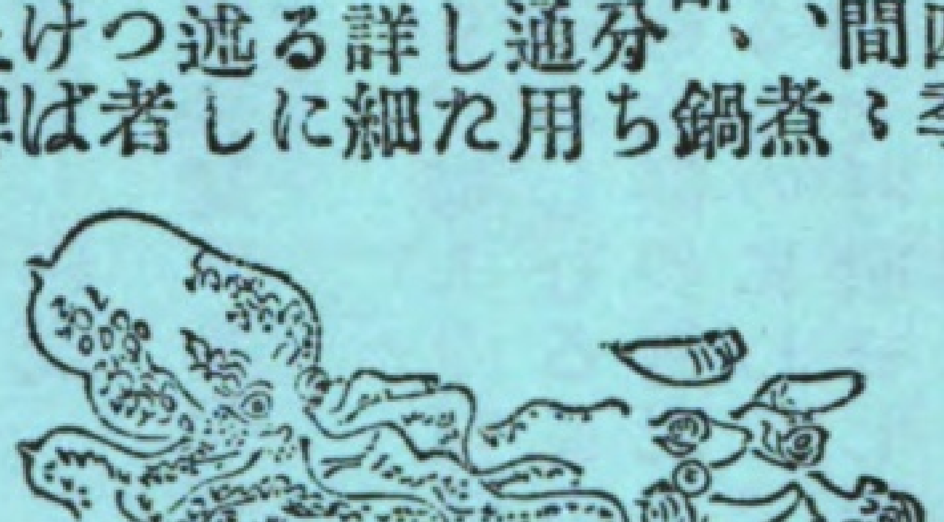
## 素人料理　年中惣菜の仕方　全

家事經濟の要務　細君日用の錦嚢

實價貳拾五錢　●郵税六錢

夫れ割烹は女學の一科目にして實際に必用の業也而して年中三百六十日毎日惣菜の仕方に困るは細君の常也此書は儉約を主として四季の惣菜と爲すべき者を多く集め間〻客を饗する料理を加へ之を汁類、煮物、したし物、あへ物、炙物、生酢、鍋物、天麩羅、漬物、飯類の十類に分ち類每に又之を春夏秋冬及び四季通用の五部に分ちて一一其切方よりしたぢの加減煮方の手順に至るまで詳細に記載し之を總がな附よし加ふるに圖解を以てして極めて深切に著述した新機軸の書也苟も世帶を持つ者は速に一本を購ひ常に座右に置けば啻に參觀の便利のみならず家政上稗益あること亦小少に非ざる也

(附言)嫁入せる女子には稽古がてら此書よ就きて實驗せしむれば後日の爲めに大よ益あるべし



發行所　名古屋本町通鐵砲町二丁目　靜觀堂

英國コルクス女史著譯

# 德婦美譚

上下二册
正價 金五十錢

總クロス洋裝美本密畫入

本書ハ西洋各國ニ於ケル賢母、良妻、孝女、慈善家等德婦淑女ノ美譚ヲ蒐集セルモノナリ女教ニ心アランモノハ必ズ一讀スベシ

第三高等中學教諭田村初太郎君序
成瀬仁藏君著

第三版 增補

# 婦女子の職務

定價十錢
郵稅二錢

成瀬先生の女子教育に熱心にして且熟練なるは普く諸君の知らるゝ處なり本書は第三章に分ち第一章に婦人の眞價値は如何なるものか且如何にして之れを得らるゝや云々第二章には我國女子教育の弊習を説破し今後女子教育の方針を説明せらる第三章家庭順逆の源は婚姻にあり故に輕々敷行ふべからざる理由且良夫を撰ふの方法より良夫に從ふべきと其他婦人に緊要なる事柄を列記せらる本書は文單にして意盡せり諸婦人の解し易きを旨とし委く傍訓を以てす苟も心ある婦人諸氏は老若の分ちなく愛讀を賜へ裨益する所少々ならざるべし

巖本善治氏序
德富猪一郎氏序
竹越竹代氏編

# 婦人立志編

定價二十錢
郵稅　四錢

●再版には此書に對する各新聞雜誌の批評を附錄として記載せり

今や婦人教育の問題喧びすしと雖も、婦人の模範とすべき女傑の傳記を讀ましめ、自ら鑑みしむるにあらずんば効あるなし。此の書は泰西各國女傑の傳記を婦人立志の助となすべき樣に編述したるものにして、愉快を以て讀む間に、自然に女傑の精神を呼吸せしむるを目的とす。且つ從來ありふれたるものと異なり、新たに泰西の好著述を渉獵して作りたるものにして、婦人文學者あり、婦人宗教家あり、婦人政治家あり、貞婦あり、賢母あり、慈善家あり、女學生、家庭及び人の母姉たるものゝ必らず一本を具へざるべからざるもの也。若し家庭に於て燈火の下、姉妹母子相對して之を會話せば、其面白さと利益とは如何に大ならん。婦人の傳記の外、泰西の大學者が、自立、自助の精神を以て述べたる文章を、其間に挿みたれはまた一の家庭修身書と云ふべし。處々には美麗なる銅版。木版の繪を入れたれは愉快限りなし。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

近藤嘉三先生著諸大家序文

言語作法 **貴女の心得**

全一册　賣價十四錢　郵稅四錢

表紙石版美本菊版大形圖畫六十餘挿入

本書略目次は淑女の心得夫人の心得化粧の要訣談話の心得訪問の心得賓客接遇の心得室内粧飾法和歌の書方香道の心得茶道の心得新式和洋挿花法家庭衞生法等其他數科にして一々圖書を以て之を平易に説明し其數科の内一科を心得るも有益の書なり所謂貴女の位置眞價を進んとする婦女諸君本書を一讀せられなは本書は實に夫人の敎師として淑女の朋友として而かも眞成に多識多藝なる良師良友を得たると同し價値を有し眞の貴女たるを得ん

藤井大人遺書文廼家主人補校

**消息文典**

和裝美本　全二册　正價　四十錢　郵稅　不要

世に國文典あれども各散帳黷書を繙かずば要を得ず此書は從五位藤井大人の遺書にて消息文法上考證多確なる上更に普通國語文法にてをは等を增補せし故一書にて國語國文完修せらるゝ便あり小學校子弟は更なり敎員受驗等準備には最良師たり又講習用若くは作文敎授上には好伴侶とならん

華族學校長西村茂樹先生序

法學士　畑良太郎　著

**日本婦人論**

全一册　定價金三十錢

女子敎育に關する著書世間甚た多しと雖概ね一部分のとを記述せるものなるか本書は女子躰質上の資格性質上の資格藝能上の資格より詳論して婦道の全躰に及ぼし一切女子は如何なる點にまで責任を負擔すべきものなるかを丁寧に論じたるを以て自ら女子敎育の方針を示せるものにて又婦女子自ら之を誦讀するときは大に己れの本分を明にして大層守る所あるに足るべし

高等女子師範學校長

從三位細川潤次郎君題字

中島知子著　岡田廣鶴女史挿畫

校正 **日本の裁縫と女禮**

第二版　和裝本全二册　金四十六錢　郵稅不要

本書は縫ぬぎの初歩より衣服袴等に至るまで順序を逐ひ裁方縫方並道具の使用法まで一々圖解を以て叮嚀に談の躰に書綴何物事にふれて女禮をも夥多の彩美畵を加へて説き示し師を要せず女子の道を悉く覺る寶典なり第一版は賞品等適當とて好評を得て既に賣盡し今更に校訂再版出來せり婦女方は早く購められよ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

宮中顧問官西村茂樹先生題辭
日本弘道會員風當朔郎先生編纂

# 日本女鑑

全二冊
定價各金拾五錢
郵稅金六錢

我國女子優美の性は、眞に我國獨占の精華ふりかし、此書は著者が美妙なる筆にものして、以上の德性を發輝せしむるを目的とし、女子に敎ふる嘉言善行を纂めしむるものなれば、女子敎科の用として、適當なるは申すまでもなく、家庭にありて婦女子方の良師たり良友たり

瓜生寅著述

# 女子家政學

全二冊
上四十五錢
下七十錢

此書は全篇を十六章に分ち更に百九十三項に細別して家族のこと家作のこと家内健康の事空氣流通法煖爐地坑烟突の造法家屋の修飾家中運動食料身幹衣服の淸潔食物調理早起の事行儀等の事に至るまで最平易なる文章にて丁寧懇深に叙述せるものなり之を中等敎育に關る諸學校敎科用書として最適當なるのみならず一般婦女の誦讀して日用に裨益多かるべし

池袋淸風大人の著日本綴上下二册

# 淺瀨の波 和歌の知るべ

正價金三拾錢　郵稅金四錢

此書は有名なる池袋淸風大人の著にして、案山子社中の藏にかゝるものにして、我社出版の百人一首講義と共に歌道自修の御仁には頗る有益なるものなり、此道に志す御方は是れ一本を坐右に供玉へ。

篠佐吉編輯

# 獨習自在 珠算獨案內

全一冊
正價金八錢
郵稅貳錢
郵劵代用一割增

目次●珠算手ほどき●金錢の算●穀物の算●酒、薪、炭、油、味噌、鹽の算●茶、煙草の算●木綿絹、麻、外織物の算●鯨尺を曲尺に直し且角物物積の算●藥種紙箔置の算●運賃地代の算●杉枌の算●日雇給の算●利息の算●差分の算●盈朒の算●步詰の算●桝積立坪の算●開立方の算●點竄入門●同圖題

本書は工商士農を諸はず就學の遑なくして和算を自習せんと欲するもの丶爲めに特に編輯したる書にして問題の**難易に拘はらす**一々解釋答式を附し數月を要せす和算の奧義を知らしむる良師なり



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百五十七號

明治二十六年十一月十一日發兌

社説

# 經濟の道（中）

## （六）帳面の面てに憲法あり

預算と紀律とは、猶ほ憲法の如し。之によりて、朝令暮改の輕率を制す。此の「定め」輕々しく動くときは、万規確立せず。出入、亂雜して、收支に勝手我儘の事のみ多からんとす。左れば、商人が、其「帳面」を重んずると、極めて恭やしきものなり。帳面の認め方、及び、其の勘定法には、商家々傳の憲法備はれり。商人は、之を神聖にして、以て、其の預算と紀律とを維持せんとす、故に、「帳面の面て」を一の鏡とし、良心とし、法庭として、其威嚴を敬すると一と方ならず。俗に「帳面の面てに對し實以て不都合に候へば」と言ひて、貸金の催促、又は、無理注文の拒絶に一種の勢力を添ゆるは、之が爲めなり。

むかし、二宮尊德先生が、諸大名の經濟を托せられ、其の亂雜を極めたる財政を一變して、乍まち望みある仕方を立て、十年、其分度を守るがうちに、寳庫饒々として、夥たゝしき貯蓄を生ずるの妙工夫を案ぜられたると、別に不可思議なる趣構の存せしが爲めならず。單に、此の預算と紀律とを確定堅守するの一秘訣を實行せられたるによる耳。

左れば、尊德先生が、仕方を立てらるゝの第一着には、先づ其收入の高幾何なりやを確かむるなり。大名の家にては、數十年前來の年貢上り高を調査す、百姓の家にては、十數年前來の取實を調査す。商人の家にては、數年前來の商賣景氣を調査す。士ひの家にては、其祿高扶持米を吟味す。凡そ斯くして、其收入の額、確かと定まりたる后は、其收入額の半ばを以て、日用の生計に充つる預算を立て、他の半ばは、積善報德の資金として貯蓄し、只管ら善き事に使用するの心掛を

立る也。

或人曰はく、其收入の半額を以て維持することは、到底出來がたきことなりと。然り、尋常の心得にては、到底此の大克己、大節儉を爲すこと能はざるべし。啻に、其半額にて生計することの難きのみかは、其收入だけにて生計することすら容易ならず、多くは、借金して、其慾を滿たすなり。

もとより、尋常の心掛にては、此の克己節儉を爲すこと能はず。然れども、一と度び心を決し覺悟して敢爲忍耐する時は、綽々として餘裕あるべし。夫れ、收入百圓の時に、五十圓の生計を爲すことを難しとするもの、一朝轉變の出來事ありて、收入忽ち五十圓に減じたるとき、則はち亦相應の暮しを爲して左程の苦痛を感ぜざるは、何故ぞや。これ、五十圓の金に增減あるにあらず、人々の覺悟に相違あれば也。「切りつめれば、つめるほど」儉約の出來べきことを見るに於ては、最初より一の決心を起して、預かじめ、其收入半減の覺悟を立んこと、敢て出來がたしと云ふ可らず。

俗に「泥を冠ぶる」と云ふことあり。ぬれぬ先こそ。露を厭ふと云ふ義に同じ。一家の仕方を立て、大節儉を爲すに當りては、この「泥を冠ぶる」の決心を專要とす。土を堀れば、手を汚すべし、步めば、足に塵すべしなど思案するものは、先づ惣身に、泥を冠ぶりたりと決心すべし、些々たる橫着は、忽然消えて、殿樣氣見る間に滅すべき也。左れば、云々にては、恥かし、云々にては、見榮わろし、云々にては、餘りに身分不相應なりなど云へる、虛榮の念（見え坊の心）を全く除却し、先づ己より身を下し、我ながら月給半減の辭令書を與へ、斷然、其格を落すべし。此の一念先づ決着せば、心氣綽々、爽然として、克己節儉の苦に堪ゆることを得べし。

扨て、收入の半ばにて、生計を維持するの憲法一と度び定まらば、此半額を基礎として、入用の費目に割り當て丶、其高に隨がひて、生計の格を立つべし。租稅、賄費、衣服料、家屋修繕費、器具費、雜費、臨時費、交際費、不時用貯蓄等の諸項に分ち、之に對して、相應の金額を割當てたる后は、確と其分度を守りて、超過せざることを覺悟し、たとひ過不及ありとも、流用することを嚴禁し、各項目夫々に於ての貸借として、一年度の間だ繼續せしむべし。此の流用せざる事の一義は、正しき經濟に於て尤とも大切なり。流用は、緩漫の初步なり、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

紀律之より破る。各項、各目は分隊長の如し、個々其責を負ひ其任を守らずんば、全軍の軍紀大に亂れ、大將如何に鋭意すとも、氣勢到底挽回すべからざるに至らん。

子女の敎養費、公共への献金、貧者への慈善金、望ある者への補助金等は、すべて収入の他の半額にて充たすべし。皆これ、他の爲に善を爲すの項目にして、經濟上、尤とも愉快なる所ろなり。たゞし、此等善事の爲めと云ふと雖ども、収入の此半額を月々全く之に使ひ切るとある可らず。亦此の所に於て貯蓄を要すると、言ふまでもなし。子女の敎養費に於ても、月々の敎育費の外に、他日成長の后の多額なる學資金、もしくは婚嫁等の入用に對して、今より月々貯蓄せざる可らず。又、献金、慈善金、補助金等も、月々は其三分一を使用し、他の三分の二は、貯蓄して、之を非常に要するの時を待つべし、前年、愛岐兩縣下に大地震ありしとき、或學校の門番は、一時四十餘圓の義捐金を爲したるとあり。此人の平素の御心掛こそ人々の學ぶべきもの多かるべけれ。

大畧、右の如くにして、出費の預算を立るに當り、返々も、心すべきは、項目の分ち方を明らかにし、之に割當る金高を相當にして、而して后ち其分度を堅く守るの一事これ也。元と御料局に長官たりし肥田濱五郎氏は、經濟に嚴正の人なりき。用意愼密にして、財政上の心掛近代無類と傳ふ。例せば、庭園に植る樹木にても、單に花をのみ愛づべきものを用ひず花あり果ある一擧兩得のものを撰み、風景と經濟とを婚配せしめ、便利と實用とを相交はらせて、一品一物の製作にも、慘憺たる經營の跡歴然見るべかりしとは云ふ。或人の談しに、肥田家の障子の棧は、皆な下に向ひて斜めに仕付ありしと云へり。これ、塵を拂ふとき、取れ易く、第一、奇麗なる上に、障子の紙の持ち方にも關係するが爲なりとぞ。用意の周密なると、斯く計りなれば、其預算の項目に隨がつて金を配當すると極めて嚴重にして、妻子銘々に定めの入用を當てゝ之を托する外、種々の項目に一々紙袋をつくり、其中に金を分けて入れ置かれたり。而して、この多くある項目の中には、盜賊の入りたる時、與ふべき分と云ふ一項もありしなど傳ふるものある也。

出費を制すると、大略此の如くなると共に、入金に對するの心得も亦至つて緊要なり。經濟上の半眼者は、兎角、出費に

のみ着目して、入金に注意せず。儉約のみに齷齪として、入金を殖やすヿに鋭意せず、憫れむべき也。例せば、今の衆議院の豫算會議の如し。常に政府案の出費を減ぜんヿにのみ骨を折りて、其入金高の當不當に心を留めず、密かに識者の笑を買ひ、狡猾者をして何處にてか舌を出さしむ。

左れば、出費を制すると共に、入金の增殖に鋭意すべし。此の積極的の方針に注目せず、只管ら消極的の節儉にのみ拘泥せば、食物を減して空腹に堪へず、遂に衰ろへ臥して働らかざる人の愚に同じからんとす。眞の經濟家の爲ざる所ろ也。

故に、現在の入金に對して、前述する如き嚴然たる出費の豫算を立てたる后は、更に一息奮發して、從來の盡力に一割を增し、其收入を殖やすヿに勉强すべし。

斯く、出るを制して、其半ばを善に用ひ、更に入りを殖して貯蓄せば、富の來らんヿは、朝たに日の登らんが如し。其來るヿ、明々白なるのみならず、來ると共に、爽快をつれ來る。榮光をもたらし來る。此に於てか、四方春の如けん。

(七)夫人獨斷整理の領地

一家の夫人もし少しく注意すれば、大ひに節儉するヿ、多少の收入を殖やすヿ、容易なるべし、相州三島の禁酒家某女史(前述せる肥田氏の妹なり)は、下婢を置くべき家柄に於て家婢を止め、自から代りて之を辨じ、其支拂ふべき豫算の給金と食料とを自から受けて禁酒運動の入用となし、折々は東京の名士を聘して大演說會をすら催ふさるゝ也。苟くも、此般の決心を有せば、主人が割り當てたる豫算の內に於て、他人に難儀を掛けず、單に自己一身の計らひにて、月幾割の儉約を爲さんヿ、容易かるべし。況んや、火鉢の炭は、灰を被ふと否とにて莫大の相違あり、竈の薪は、黒烟を出すと否とにて、入用に增減多し、其他、ランプの心の出し方より、器具の扱かひ方に至るまで、密柑の皮より、柿の種に至り、木の葉の集め方より、繩、俵の利用法に至るまで、一々、經濟の種ならぬはなし。試みに、東京の勝手向より、西京のくりやに行き、古風の妻君が台所より、女學生上りの人の庖厨に移れば、天地雲泥のけぢめあらずや。苟くも、用意周密なれば、料理、裁縫、接客、買入等の諸項に於て、著じるしき儉約と、利用方とを生ぜんヿ疑がひなし。



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

傳ふらく、當世の金傑、岩崎家に於ては、半紙の遣ひ方をすら嚴制し、其枚數を認ためて一々用ひ方を記るすとかや。夫れ、節儉、紀律は、卑しきとにあらず。之れ、多くの善行の基いなりと知らば、人々樂しみて之に鋭意熱勉せずんばある可らず。

## (八)　經濟と道德とは双子なり

經濟は、豫算なり、紀律なり、節儉なり、克己なり、勤勉なり、犧牲なり、積善なり、献身なり。故に、經濟は、道德を導びき、道德は、經濟を伴ふ。道德と經濟と決して相ひ離るべからず。經濟なき道德は、空談に流れ易し。道德なき經濟は、卑吝に陷いり易し。經濟は、實行なり、慈善なり。故に、道德は、之によりて、現實の敎となる。

## (九)　望は救ひなり

經濟上の豫算と紀律とには「望」を大切とす。「望」なくして、亂暴に陷いらざるものは、殆んど稀なり。故に、借錢多くして、前途の見込なき族は、豫算を立つるの元氣なく、紀律を守るべき覺悟もあらず。「何如にすべきぞ」と問はるれば、今更の如くに驚ろかるゝを以て、只だ斯る「問」を起さゞるやうに、只管ら不調子の事を爲すのみ。

左れば、富人は、大抵、節儉家たり、貧者は、之を見て、至難の事と感ずべけれど、富者に在ては、元來容易の事なりとす。これ、其節儉に「望」あるが故なり。「望」は、一の救ひなり。よく、人の現在の苦痛を忘れしむ。「望」なくして、己に克んと頗ぶる難し。

此故に、經濟に愼しむの心を引起すべき初步は、貯金にあり。もし多少の貯金出で來「我が財產」と云ふもの現實に蓄積すれば、玆に初めて「望」生じ、之を增大にせんとするの勇氣初めて兆す、之よりして、勇氣、己に克ち、克己、勇を生じ、層々段々として、いよ〱貯蓄心を生ずべき也。左れば、ベインは、心理學上の微妙なる道理に訴へて、「人の經濟心を引起す近道は、之に土地を所有せしむるにあり」と云へり。土地は、動かざるもの也、消えざるもの也、容易に手離しがたきもの也、此不動確固なる產を、我が所有となし、一個の地主として、嚴然、其地をながめ、草の風に波立つ狀、土の畦

にうねる實況などを目擊せば、健全なる經濟心は油然として起り來るもの也。

故に、放埓なる不經濟の人、又は意思弱き遣ひ手を警醒悔悟せしめんには、之に若干の預け金を托し（素より其預證を當方にて所有す）之より生ずる利子を與ふるとして、其利子を同様に貯蓄せしむるか、又は、之に地面若干を與へ、某年間其地劵を當方に預るなどの趣向を立つべし。

## 兒籃

### いはひ歌

第五曲（上）　しづ子

ヲグルスの子供で一番早起きなのが、まだいつものブリキ喇叭を吹き始めぬ中に、お袋はモウ夙に起き出でゝ、大忙がしをして居り升た、なぜかなれば、此家にとつては、けふといふけふ、天下晴れてのめで度ひ日でした。晴れとも、晴れとも、家の九人の子供が表の、あの大きいお邸へ御馳走に呼ばれて、國中の歷〱と同席することですもの、此家にとつては、それこそ、空前絶後の晴れ日でした。お袋は其招狀が來るとすぐ仕度で大騷を始め升た。オーそれ、其招狀といつたら早速、古寫眞入へ歛め込み、これ見よといはぬ斗りに、臺處の一番目にたつ鏡の下へ、下げ升て、折々出は入りする人を羨しがらせ升た。

一寸申上候、このクリスマスには御馳走を致す筈に御座候へば子供衆みなさま御遣はし被下度候、セイラ様より一番少さいヲレさまゝでみな樣御出被下度御待申上候御飯は五時半頃よりにいたし七時よりクリスマス、トリーに相成候間九時ころにはお歸りになる樣致さんと毋も申居候

クリスマスも正月もめで度御祝被遊候樣ねんじ上候

ペード、カロル拜

ヲグルス奧樣御まへ

朝飯の時になり升て、お袋の心の中に、けふこそも、腹一杯食べさせずとも好い、少々づゝへずることにしようと考へ、膳に並べたものはいつもほどの分量が有ませんかつた。併しけふの御馳走が翌日幾分か賄の足しになれば結構だが、中〱どうして、子供たちの、丸で風船玉の樣な腹は、干上げて置



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いたも同然、おすはひもじがるだらうと思ひ廻らすお袋は、自然嘆息を漏らすも無理で有ませんかつた。なけなしの朝飯をしまふや否、お袋は部卒どもに一々軍略を授け升た。

サア、スーザンはキチと流し元の洗ひ場を片づけな、ピータアは床をしまふが好いぜ、かあやはモ少し縫物をしなけれリヤ、ならんから。イーレは、かあやが取りに遣るものが有る、ソレ用の出來ない、少さいなア、邪魔するときかないぞ。クレムや、おまへ、コンとラレをつれて、あの床ン中に、ちつとの間、はいつてなつていふとよ、おまへたちの襦袢洗つて遣んだからよ、ナニ、直ぐ乾くさ。さうよ、嫌だらうが、仕方が有りやアしねへ、おまへたち、お客になつて行くんだらう、それに、その位いの辛棒が出來ねへじや、仕方アねへ、夕部、かあやが、どふしても、それまで手が廻らねへだもの、サーラや、おまへ、をぢさんの巡査の服についてる、眞鍮のボタン取つて、おまへの腰袴のまへへヅッと並らべて、くッつけて見な、とんだ氣の利いたものになるから、よッ………スーザンは、キチのと自分の前掛に火のしィかけなけりやいけないよ………アレッ、もちつとで忘るとこだつたよ、夕んべ、洗濯ッするとつて、勘定して見と、どれィとれおッつけて見ても、十七しかねいじやねいか。まさか、おらァほどの育ちィしたものが、子供らあんなとけィ客に遣りていに、チグハグの靴たびィ穿かしても、遣れねいからな………だからな、イーレ、おまへ、カレンさんとけィ行つて、おかみさんに、靴たび一足ピオレのに貸しておくんなさい、其代り、ピオレが歸ッて來ると、貰ッて來た菓子ィ半分、ヂム（息子の名）さんに上升からッて言て來な、よ、ピオレ、おまへ遣だらう、ヤッ？

頑是ないピオレは、食べ度が病ひで、そんな代〳〵の理屈はさつぱり解せず、ワアッと計りに反對說を鵝鳴り出し升た………餘り理も非も分らず、强情に鵝鳴り續け升ので、お袋も耐へ切れず、眼をひからせ、手を擧げて、にぢり寄り升た。併し急に手を下ろして、

いや、よさう、クリスマスのこつてもあるから、おまへたち逆上せ上る樣な眞似ィしても、ぶんなぐる丈はよさう、だが、しッかり返答しな、おまへ、どつちにする、脛ィ丸




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

出で、お客に行くか、それとも、菓子ィ半分ヂュッ見に遣るか、ヤア、どつちとも、いつて見なッていふとよ。
物の道理をはつきりと、言ひ聞かせられて、流石のピオレも、やつと分別をつけ、涙を止めて、禍の少なき方を撰らび升た。尤も其決心は、クレムが自分の菓子を半分ッこにしやふといふ愛嬌ある、眼くばせで、余程早く出來た樣子でした、お袋はやうやく、機嫌を直し、
それでこそ、お孃さまだ。サアなんにも、用がねい子供らア、午までさんざつぱら、遊ぶが好い。午飯ゥたべて見ろ、セイラとかあやで、それこそ、ひつこすつて、ひつとかして、おまへらが生れてから、されたことのねいほど奇麗にして遣から、それから、みんな、チヤントお召し變へして、サア、これで好ッていふ時になると、それこそ〳〵座らせて置いて、二タ時も行儀ィ仕込んでやるから、ふざけるどころじやねいから、さう思ふが好よ。
ピイターといふ男の兒が、口の中で、ブツ〳〵、みんなが行ッて、食さへすれば好ンじやねいか、
さうよ、食へば好ッて、食ふにも幾通りも、あらあな、おまけに、おまへなんぞこそ、どれほど行儀ィをせいても足りヤしねいぞ。それこそ〳〵、かあやなんどが、食ふ時の行儀ィ仕込まれたとこ、おまへらに見せて遣りてい樣だな。かあやなんぞは、それこそ、台處なんぞで、一度もおまんま食つたとァ有りやしねいぞ、こゝへ嫁に來るまでッていふもの、それでも、仕方がねい、をやぢァ船に乘つていつて、いつでも留守だし、家にァ、九人も少せいのが、頭ァ揃へてゐるッていふンじやァ、見へも何もして居られねいからな、
大きな子供は思ひ存分働らき、少さな子供たちはお袋の威勢に怖ぢて、いはれる通りに遠く避けて居り升たので、午后の一時といふと、九揃ろひの着物が、まんまと、そこへ并らび升た。一ト揃ろひといつた處が、極く上等な社會では、揃ッたとはチトいひかねる鹽梅でした。併し埋め合はせは漫邊なく、つけて有り升た。領飾のあるものは、カフはつけず、帶をつけたものは、ハンケチは持つて居ませんかつた。またそれが、あべこべで、カフを嵌めて居るものは、領飾はあてがはれず、ハンケチの辨利を持つ人は、帶の飾なしで、間に合せ升た。併し靴を穿かぬものは一人もなく、着物もとふにか、

間に合ひ、兎に角、上部丈では、さほど見ともない處は有ませんかつた。

お袋は眞赤な顏になつて、姉娘に、

サア〳〵何もかも、仕度は出來るから、始めるとしよふぜ、釜にも、鐵びんにも、小桶にも、湯が入れてあるからな、かあやは、スーザンとキチと、ピオリヤと、コーニリアスとそれ丈は受け持つから、セイラはクレムとイーレとラレとそれ丈、ひとり〳〵洗つて遣つておくれ、思ふさま、引こすつて、あとォせつせッと流してな、其中に、かあやが仕上ィに行て遣から、それから、おまへ自分の身じまひすれば好や。

セイラは板の間の雜巾がけをするといつても、これまでといふほど、勢よく磨り升た。さうして、ラグルスの面〳〵は天性の勇氣はなくとも、眼前の樂しみに免じて、きつくなつて耐らへ升た。併し餘まり見つともない蕎麥粕だとてみがき砂を少し頰になすり升た時丈は、流石辛棒强い子供らも、勘忍袋の緒を切らし、少しく不平を鳴らし始め升た。時計が四時を報じ升た頃には、一同大約の身じまひが出來上り升たが、さてこれからは、一番暇のかヽる、何かの飾りや、そこヽのとりつくろひが始まり升た。

キチの赤ッ毛は卅四束にちヽらされ、セイラのはチャン〳〵の樣に一本に編まれ、スーザンとイーレのは二本づヽに組まれ升たが、ピオリヤの丈は、いくら油でなづけよふとしても、栗の毬の樣に逆立つて、到底修まりがつきませんかつた。其混雜の眞最中、クレムが、其つッ立つた髮を何の樣だとかいつて馬鹿にしたとて、お袋の機嫌を損こね、戸棚へ入れられるやら、ピオリヤに詫て貰らつて、漸やく出して貰らふやら、大騷ぎでした。それから、カラをつける領飾りを結ぶ、帶をメる…………それから、ピータアの紫色の領かざりへ、麗々と眼にたつ綠色のピードロ製ピンを縫つけるといふ根丹があつて…………さては〳〵、ラグルスの面〳〵が一生の晴れといふ紛裝もいよ〳〵出來上り升た。

古調詩吟ニ山色裏一、
無弦琴在ニ月明中一。

## 理學

### 地熱（一）

けい子

單衣は扇子と供に、深く器底に入り、袷衣は時得顔に、黴塵を拂ひもあへず、簞笥のひきだしより立ち顯はるゝ、時節となりぬ、かくて猶二旬三旬と過ごしなば、置巨燵戀き夕部を、迎ふるに至らむ、されば今日此頃、熱なる文字を紙上に散らすも、さのみ大早計と、云ふ程にはあらざるべし、理學者云ふ、熱は動力の根源なり、又活力の基本なりと、斯くの如きことは、皆世の人の熟知せらるゝ所にして、則ち熱なければ、氣躰の如く、液躰の如く、質點常に動搖して、止むなき物躰は、全く絶へて、跡を留めず、万海千洋を蹴て、疾走する滊船、迅風の如く、斷雲の如く、千百里の鐵路を、瞬間に横行する滊車は、云ふまでもなし、靈妙不可思議の我等人類を始め、禽獸草木盡く、殄滅すべし、斯の如き無熱時代則此世界の最終期はいつぞ、いづれの代ぞ、之れ素り算筆を弄するも、容易に算定しがたしと雖ども、我地球の大熱源即ち大陽の冷却期と、月界の如く、此地球界の凍凝して、老ひ朽る時期は、此無熱最終期と億定すべし、斯の如く說き來れば、熱なる語を口にし、熱なる文字を眼にするにも關らず、心寒く悽然たるは人の情なるべし、されど此期に達するまでに費す所の、億万の星霜を重ぬる間に、我等人類は、いかに變化すべきぞ、或は靈進して神化す可きか、或は俗退して墮落するか、供に得て知るべからず、いづれにせよ此時期至りなば、當時の如く、物質に由て運動する、不自由なる肉躰を備ふる人類は、生活すること能はざるべく、又靈魂果して不滅のものなりせば、此有形界を脫し、遠く無形の仙境に逃れ、高き靈域に遊ひて、無限の生地を得るやも計り難く、此等は全く物質外の問題とす。

今茲に熱の事を、陳ぶるに當り、此極大熱源を第一とし、滊車滊船に用ひる如き、大器關を運轉する熱力の源を第二とし、日々我等が使用する、少許の火熱を第三として、說を續がん、第一熱源とは何ぞ、既に論ずる所の我大陽熱、恒星熱及地熱之なり。此等の極大無比の自然熱中、我大陽熱が動力の



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

根源となり、吾人を活動せしむることは、既に陳るが如し、恒星は我大陽に等しき、大星にして、之より發射する所の熱量も、我大陽に比すべく、其量素より夥多なりと雖ども、我地球界よりの距離至て遠く、從て我地球が受くる所の熱も、甚だ少量なり、其次に來る地熱とは何ぞ、我等人類が、躰內に貯藏せる躰溫の如く、我地球が創造せられし當時、則ち我大陽界より分身して、一個獨立の地球界となりて、此世に出現せし其時より、固有せる熱なり、さて分身の當時にありては、其熱勢猛烈にして、啻に人類の繁殖を、許るさゞるのみならず、地球界の名稱に適す可き、整然たる球狀をすらも、有つこと能はず、大火團となりて、赫々として大空に懸り、少なからざる光熱を發射しつゝありしこと、疑ふべからず、此幼稚の地星、年を重ね、漸々熱を失ひ、流液躰となり、濃熔躰と化し、薄皮を生じ、地核と變じ、今は早や、誰やらの詩の如く、星の生涯の春も過ぎ行き、涼風ほしき夏の中となりぬ、橙實に似たる、地塊の外面には、五彩の丹青を凝したる邦國、著く皎く、外光を反射しつゝ、波動する海洋、凹凸不定の山谷、四季それ〳〵に改むる、月雪花の晴れ着はものかは、靈妙不測の有情物さへ、其上に活動する時期とはなれり、時に問ふ、濃熔物の固結して成りたる、外皮の厚さは如何、地皮の厚さに就きては、諸說百出一歸せず、されど其厚さ七八里を過ぎざるべく、以下は皆大抵極熱の熔液躰なるべし、故に吾人は、七八里の厚さを有ち、岩石土質より成りて、最高酷熱の液汁を滿たしたる、一大奇嚢の上に、生活するゝ、更に問ふ、此十七十八の二世紀に當り、我地界上の邦國をして、長足の進步を爲さしめしは何ぞ、滊車なり滊船なり、此等の有益器械を活動せしむるものは何ぞ、第二の熱源、則ち石炭の燃燒に由て起る熱力なり、此石炭は、前世植物の地下に埋沒して、炭化せし遺骸なり、故に遠からず採掘し終るや必せり、假りに今腦裏に、石炭の盡きたる未來の世紀を、畫き出しなば、其狀果して如何、第二の熱源に由て、活動しつゝありし、有益活潑の事業は、盡く癈れ、勇壯なる人工の光、人爲の熱、盡く滅して、石油時代の暗淡世界に、退步すべきか、否々、電氣應用の盛んなる、かゝる不便の世の中とまでに、此開明の世を、引き戻すことは、萬々あるまじ、されど英國の石炭は、百年にして竭きるとか聞きぬ、他國の石炭とても、




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

さのみ英國と懸隔はあるまじ理學家工學家を始め、世の人々は何を以て之に代用し、光熱の需用に充つるやと問はんに、そは勿論電氣なるべし、

# 家政

## 子供につきて（四）

しづ子

### 曲れもの

英才を集めて天成の美質をはごくみ育てると、これに越した樂しみはないとある人がいひ升たが、これに反して既に其天性を幾分か損なはれ、素直なる可きものが、くねれて、尋常の形ちを失なひたる者、或ひは智に、或ひは情に、あるひは道德心などに、發達の後れた少年をはごくみ育てゝ、世に生れた効用、歡樂を完ふせしめ升たらば、其愉快は前者に増すとも、劣るとは決して有升まい。前者は誰も能し且たのしむ處、後者は十に八九までは能せぬ已か、誰も嫌らうこと故、子弟の教育に任ずる人は、特に此一事を研究す可きことと思ひ升。

### 嚴に過ぐ

曲ねれた子供を氣ついて見升に。大抵は嚴に過るか、寛に過ぎるか、二ッに一ッの人の下に有つたものが多い樣です。たとへば子供は力不相應な仕事をあてがはれるとか、或ひは苛酷な制限を立られて、普通子供に必要なる遊歩時間、其他お伽ぎ向きの猶豫を與へられぬといふ塲合には、隨分曲ねれものになるかと思ひ升。生れつき、不正直な子供といふは、容易にあるものでないことを考へ升と。矢張り、一番の始めに、長者の位置に立つものが、曲ねれた人間を製造するに違ひ有ません、子供は力一杯を盡して見升が。何程試みても、到底、要求に應じることが出來ぬと明らめ、遂に無頓着となり、無責任となり、果は其曲ねれ樣を見る人に、此子供は德義の觀念を持たぬものと怪まれるまでになり升。

### 寛に過ぐ

孫子に甘い、祖父母にせよ、放任主義の名を假りて、教育の勞を取らぬ父母にせよ、凡そ機に乘じて、子弟を警め、折に臨んで、其教訓に心を潛めぬ人々は、亦必ず、彼等を曲ねれ



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

らすものです。それを禁ずるは可哀さう、これを命ずるも無理ならんと、一にも、二にも、子供を庇ひ、自ら制御する力、自ら任ずる力、上にある者に從順なること等を敎ふ可き機會を無することは姑息の媼翁にはまゝあるとです。それが爲、たゞに人物の基礎の立たぬ耳か、子供等は全く反對に、意氣地なく、懦弱にも亦無分別になり引升て、其まゝに捨置ば、世に有つて、人の用に立たぬ計りか、自分さへもて餘す廢物と化し去るものです。

此外、世には一種の說を取る人か有つて、最大の問題を除くの外は、一切、幼者の爲すがまゝに、放任してしまひ升。これは元と、微細の事故にまで、關渉し。くだ〳〵敷法則の爲に、幼者の意志を曲げ、天然の發達を妨げるといふ弊より起つた反動で、きこえは甚だ立派ですが、其實、疎漏なと多くたとへば子供が命令に從わぬとて、譴責するとを怠り、又一度禁ぜしとも、思ひ直して、これをゆるすといふ樣なと多く、遂には、其寛なるにつけ入り、其優なるを利用して、幼者はます〳〵横着に、いよ〳〵吾儘に增長するとが有升。

思ひ遣り、嚴格、方正

元來、思ひ遣りの足らぬ、不深切と、放任幷に甘やかしとで拵らへた、曲ねれものとし升れば、思ひ遣りと嚴格と、方正と三つのものを適宜に調合した良劑でなければ、迚も此難病は治するとが出來升まい。

深切にしてお遣りなさい

逆遇が其性質を曲げた者で有つたならば、それほど、可哀さうなものは有ません、世は推しなべて、冷度もの、人は一般情なきものといふ觀念が、其子供の心の底まで浸み徹つて、さてはあの通りに强もし、あの通りに人を睨つけるのです。嚴しく責め、用捨なく懲しめると、すると尙〳〵其强情は募り升。それ故暴風が剝とれなかつたといふ旅人の外套を優に和らかき日の光りが雜作もなく脫せたと同然、强制沙汰では決して成効は見へ升まい。「此强情ものが」「此强ねものが」と、どちら向いても、彈かれ、蹴られして、果は人は忌わ敷、我さへ疎ましく、身を捨てものにした上で、聊か人に對して、鬱憤を晴らすのですから、彌よ、自分を愛し、重じて吳れる人があると發見した時の驚は非常です、其上自分に耐へて、過失をゆるし、母心の温味を知る樣にして貰へば、固く結ん

だ蕾はいつの間にか解けて、愛情の美事な花を開らき升。心の開らけた上は萬事速かに發達し升て、存外氣骨ある、多望な人間になり立ヿを信じ升。

嚴格、方正になさい

優待、放任から曲ねれたものは、既に權威を無みし、長者の弱點を利用するものです。それ故、苛酷とはいはず、余ほど注意して、方正と嚴格とを用ゐねばなりません。たとへば、下した命令を果し遂げるまで嚴密に注意し、忠實なりし分は惜みなく賞し、横着なりし分は余す處なく責め、總て後日を警め、勵ます工夫をせねばなりません。是にさし加へて、申すまでもなきヿながら、敎育者自身が粗忽輕率なる言行のない樣に、今まで長者を蔑視したに引かへて、充分我手本と尊崇し得る樣に勉めなければなりません。

結局

幼者を敎育する心得は、敵へて、我意の如くに矯正するといふではなく、一方には万世不易の堂々たる道德を認め、それに向つて我も進み、さては子弟の歩をも助けて、同じ方向に伴わせるといふ覺悟にあるヿ故、己れ先づ一身を重んじると共に、幼者を重んじ上帝の生み玉ひし愛兒の必ず望を終局に達するものと信じ、且つ幼きものにも、其信仰と自任とを絶へず心に燃やさするヿにあると確信いたし升。

## 雜錄

### 故大和田建樹夫人遺稿

明治廿三年一月五日の記

左は、此ころ身まかられたる大和田建樹ぬしの夫人けい子の君が遺稿の中の一ふしなり。

思へばをとゝしの春の事なりけり。父君六十一の御賀仕へ奉るとて人々うちつどひて歌よみ舞ひかなでつゝ猶いく千代もといのりし事は。これも今はいたづらになりはてぬ。いまさらくやめどかひなし。御通夜しながらてふ子の君と同じ事をくりかへし語りつゝなきあかす。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

御病は胃癌とぞいふなる。去年十二月の中頃より御食事すゝまぬがちにて。やう〳〵おもりたまへど。さりともとおもふ事ばかりをたのみにて。御夜とぎし御藥すゝめ奉りしことなども夢のやうなり。事きれたまへる時の御顔を見奉るに。よべくるしみたまひし時のさまも見えず。ゑみたまへるやうなるを見奉るにも。かなしきこと限りなし。二日おきて七日といふ日の朝。青山にをさめ奉る。齋主のりとをよみ奉るほど。涙はふりおちてとゞめがたし。かくて御柩をいだし奉る道すがら。是やかぎりの御供とおもふに。悲しく心ぼそし土にしをさめ奉るときの心地。ましてたとへんやうなし。

おろそかにつかへまつりし明暮を
　みたまの前になげくけふかな

君めせどたれもこたへぬおくつきに
　夜寒の風やいかにふくらん

○みじかうた

早春水

里川の蘆間の氷とけそめて
　のどかに煙る水のいろかな

山霞

消えのこる雪だに見えず秩父山
　けさは霞のおくにかくれて

柳

八重霞あめとやなりし里川の
　堤のやなぎ風おもるなり

深夜螢

ふくる夜の谷の柴橋たゞひとり
　やみにわたるは螢なりけり

晝顔

堪へがたき夏の日かげもよそに見て
　ひとりうちゑむ晝顔の花

秋朝

見わたしの山の端あをく霧はれて
　日影こぼるゝ峰のまつばら

秋霜

なく虫の命とたのむ草の葉に
　夕霜しろく秋ふけにけり

落葉

とひすてし嵐のあとの柴の戸に
　樫の實おつる冬のゆふぐれ

橋霜

夕風をまちてすゞみし棚はしに
　おく霜しろくなれる頃かな

故郷松

昔わが植ゑしはこれか故郷の
　軒端をかくす松のひともと

雲

見るが内にすがたかはりて色々の
　かたちよそほふ夕暮の雲

閑居

天地のなしのまゝなる山水を
　あけくれ庭に見るぞたのしき

○珍らしき孝子のはなし

拙者此春、大和廻りをいたせしとき、七十ばかりの老母を負、西國を順禮する孝子に會しが、同伴皆感涙をながし、手拭はな紙、或は路用菓子なんど、我も〳〵と餞して、ありかたかりぬ。此同伴はみな富家にて本より孝心なる事は、我等常〳〵恥入し人々なり。其身孝心深きゆへ、人の孝行なるを見ては、感じる事もまた深しと、貰ひ感涙流せしが、折節遠國の道者と見へて、三十余りなる男通りかゝり、孝子に對ひ、國所を尋問ひ、矢立を出して、我國所を書て渡し、かならずたづね來られよと契約し、道中筋の心得になるべき事ども委しく敎へ、扨自身の細き帶を解、孝子の脊中の帶に結付、鐙のごとく兩方へたれ、老母の足に程よふ蹈せ、ふらつけば血が下り、かならず腫の來るものなりと、懇に介抱し、扨々貴殿は羨しひ、我等も去年老父を負て、西國を廻りしが、熊野を一ヶ所打殘し、來春はまた熊野詣でと、親子樂しみ暮せしに、無常の風相またず、其秋身まかり賜ひしなり。夫ゆへに此ごとく位牌を負て、熊野へ御供いたせしなり。去年の春の道中は、樂みありて力も有しが、此旅は樂みなくて力も抜たり。扨々其元は羨しき人なりと、見上ヶ見下ろし涙みぬ。此人は、唯、人の親の、存命成を羨て、人の子の孝行なるをば、さのみ感心する躰なし。(有べかゝり)。

### ○文士別に俗務を執るべし

近時、天下に轟ろきわたれる「人生万態」(小説)の著者、チルター、ベサントを訪問して、文事をたゝきし人ありけり。ベサント、少年文學者の爲に警しめて云へらく、

決して、著作をもて生計を便がとするを勿れ、何事か一の職業を得て獨立生棲し、而して閑優のうちに靜かに文思を伸すべし。此秘訣を忘れて失敗せしあたら天才幾何ぞや。實に最とも歎くべきとなり。

### ○遊獵と女子參政權

只だ六年に一回、公けの撰擧に關係するも、婦女子は大ひに其の優美の質を失ふべしと掛念し、此故のみにて女子參政權に反らふ人々の上に、フホーセット夫人は、近頃痛快なる駁論を與へたり。

卿等、きけ、左程に女子の優美を失ふとを憂ひとせば、何の故に、先づ彼の狩獵の遊びを止めんとはせざる。女子、馬に跨りて男子と共に山野をかけり、狐を追ひ、兎を射とめ、鹿を殺ろして血の滴たるに微笑し、終夜獲ものを談じて高笑らひし、時としては叉戲むれに生物を射殺するの慰さみにあづかる。嗚呼女性のなさけを害するぞ如此く甚しきはあらじ。然るに、何んぞ此事には無頓着にして、たゞ彼の一事にのみは掛念せんとする乎。

### ○子の盲目たるは父の肉慾による

東京盲啞學校にて、本年三月、調査したる所ろによれば、盲人の命を失なひし元因は、父母の黴毒遺傳によると、尤も多しと知られたり。現在生三十八人のうち、生來の盲人は只だ三人、痘瘡の爲によるもの二人、近眼にて遂に盲人となりしもの一人と云ふほどなるに、遺傳黴毒の爲によるもの八人あり。あゝたはれ男、單に其身を醜に沒してひとり肉の慾に汚がるゝのみならず、其笑を子孫にのこして、愛兒が生命の生命たる其明を失はしむ、親の慈悲何處にありや。

### ○各地の霜と雪

霜また雪、凡そ何日ごろより降る、左に、中央氣象台の報告によりて、各地それ〳〵の季節をあげんか。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

| 測候所 | 初霜季節 平均 | 初霜季節 最早 | 初雪季節 平均 | 初雪季節 最早 |
|---|---|---|---|---|
| 鹿兒島 | 十一月二十四日 | 十一月十三日 | 十二月三十一日 | 十二月四日 |
| 宮崎 | 十一月十八日 | 十月二十二日 | 一月十九日 | 十二月十九日 |
| 高知 | 十一月二十二日 | 十一月十一日 | 十二月三十日 | 十一月二十七日 |
| 德島 | 十一月二十八日 | 十一月二十七日 | 十二月三日 | 十一月二十六日 |
| 和歌山 | 十一月二十八日 | 十一月十三日 | 十二月十八日 | 十一月二十六日 |
| 大分 | 十一月二十四日 | 十月十七日 | 十二月十二日 | 十一月二十五日 |
| 山口 | 十一月二十八日 | 十月二十三日 | 十二月三日 | 十月二十一日 |
| 廣島 | 十一月十五日 | 十月二十六日 | 十二月八日 | 十一月二十五日 |
| 松山 | 十一月九日 | 十月二十七日 | 十二月十一日 | 十一月二十六日 |
| 岡山 | 十月二十六日 | 十月二十六日 | 十二月四日 | 十一月二十七日 |
| 大阪 | 十一月六日 | 十月二十三日 | 十二月二十四日 | 十二月四日 |
| 京都 | 十月二十九日 | 十月二日 | 十二月八日 | 十一月二十六日 |
| 熊本 | 十一月五日 | 十月二十七日 | 十二月二十三日 | 十一月二十六日 |
| 佐賀 | 十一月二十二日 | 十一月十四日 | 十二月十一日 | 十一月二十六日 |
| 長崎 | 十一月二十一日 | 十一月三日 | 十二月十三日 | 十一月二十五日 |
| 福岡 | 十一月四日 | 十月二十六日 | 十二月十日 | 十一月二十五日 |
| 嚴原 | 十一月八日 | 十月二十二日 | 十二月六日 | 十一月十七日 |
| 赤間關 | 十一月二十九日 | 十一月八日 | 十二月十二日 | 十一月二十五日 |
| 境 | 十一月十九日 | 十月二十八日 | 十二月一日 | 十一月十四日 |
| 津 | 十一月二十六日 | 十一月四日 | 十二月十七日 | 十一月二十七日 |
| 名古屋 | 十一月九日 | 十月二十六日 | 十二月五日 | 十一月十日 |
| 岐阜 | 十月二十六日 | 十月二日 | 十二月七日 | 十一月二十六日 |
| 濱松 | 十一月二十四日 | 十一月十四日 | 十二月二十四日 | 十一月二十六日 |
| 沼津 | 十一月二十三日 | 十一月十四日 | 一月十七日 | 十二月十三日 |
| 東京 | 十一月九日 | 十月二十五日 | 十二月二十二日 | 十一月十七日 |
| 宇都宮 | 十月二十四日 | 十月十七日 | 十二月九日 | 十一月二十六日 |
| 銚子 | 十一月二十六日 | 十一月七日 | 一月二十二日 | 一月五日 |
| 金澤 | 十一月十五日 | 十月三十一日 | 十一月二十八日 | 十月二十四日 |
| 伏木 | 十一月二十一日 | 十月二十一日 | 十二月二日 | 十一月二十五日 |
| 長野 | 十月二十一日 | 十月十四日 | 十一月十八日 | 十一月三日 |
| 新潟 | 十一月十九日 | 十月二十五日 | 十一月二十四日 | 十一月十二日 |
| 山形 | 十月二十一日 | 十月十四日 | 十一月十七日 | 十一月二日 |
| 秋田 | 十月二十一日 | 十月九日 | 十一月十五日 | 十月二十九日 |
| 福島 | 十月二十日 | 十月十四日 | 十一月二十一日 | 十一月三日 |
| 石卷 | 十月二十三日 | 十月十四日 | 十一月二十三日 | 十一月三日 |
| 宮古 | 十月二十日 | 十月十四日 | 十一月二十一日 | 十一月十一日 |
| 青森 | 十月二十三日 | 十月九日 | 十一月九日 | 十月二十五日 |
| 函館 | 十月十三日 | 十月一日 | 十一月七日 | 十月十一日 |

# 史傳

## ○ウイラード、其容色に痛憂す

自叙傳には回顧慚愧の文多し。其舊き人を葬むりて、新らしき人の戒しめとなす。一とたび悔悛すれば、今の玉成人に辱あるとなし。方今天下の女傑たるウイラードにも、其妙齢血氣のとき、一度は亦た左の如き誘惑ありき。誘惑あるは、恥辱にあらず、誘惑を斥ぞけたるは、即ち一の勝利にあらずや。

美はしき家庭にありて、母の寵愛世の常ならず、孃の身何一ツとして樂からぬはなき中に、珍しくも只一ツ心に染まぬことそありけれ、是他事ならず、生れ得て孃が容色美ならざりし一事なり。然り孃は何れより見るも、塵ほども美人にてはあらざりき。尚幼少なりし時は、未だ左程に氣附かざりしが、既に長じて何人も自己また他人の容貌に心を留る頃となりては、果せるかな、此一事大に孃に不愉快の種とはなりぬ。重ねて孃



Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

に不利なりしは、妹メリー――が世にも勝れて格別に美容ありしとにぞある、斯からざりせば左程までには目立たざりしものを、嬌姿艶たる櫻花と並ては、清楚の梅花も色なきが如く、妍容花を欺く妹子と並ては、又一際に見劣するは道理なり。外に出ゝは、其頭髮の赭が爲、赭髮娘の仇名を受、不滿と失望に悄然として歸て之を母に訴ふれば、母は孃の顔を撫でつゝ何事も知らで云ふなる他人の言の葉、心に懸くることかは、御身が頭髮の赭きとは嘲ける人の非言なり。赭きは扨て置き實に輝やけるまでに美はしき此頭髮、思ひ出だせば、世にも珍しき美髮なりし御身の祖父なる人の幼き時に好く似たり。左れば、御身も長じては、祖父なる人にも劣らぬ美髮の人となり玉ふべし、樂みこそすれ、何の歎く要やある」と慰むるを常とせり。斯く慰められては、流石は小供、忽ちに氣を取直ほし、我を忘れて、只眼の前に、勇ましき其祖父の容姿を畵きて樂めり。左れど、孃に加擔して、孃の美を賞むるものとては、母の外一人もあらざりき。嘗て人あり、眼のあたり孃の前に、眞面目に語り出づるやう「年若き婦人にして、容色なきほど憐むべきはなし、特とに自分は不標致にして、格別に美はしき妹を持つ婦人は、又た一入に憐むべし」と。又嘗て二孃あり、孃の家を訪へりし時、一人孃に問ふて曰く「御身はさばかり質素(標致なきとの代へ言葉)に見へ玉ふを悲しとはおぼし玉はずや」。未だ孃の答へざるに、他の一人は無禮にも「孃は某夫人に其儘なり」と云ひ放てり、蓋し某夫人とは其地方に醜を以て聞へたる人なり。以て孃の到底美色を以て誇る能はざりしを知るに足らん。若き婦人の常として、最と悲に堪へざれば、孃は母と妹とに屢々其情を明かせり。母は「斯くまでに美はしく御身を作らせ玉ひし神を短ると云ふとあるべきや」と戒め、妹は又た母に言葉を添へて、百方之を慰めつゝ、一揮忽焉毛嬙西施の美を孃に授くる法杖の身になきを恨めるなるべし。孃は天資快活の氣象、他の指笑なからんには斯かるとに屈托すべき孃ならねど、憐むべし、今徒らに、云ふに足ざる小疵を苦にして、可惜自ら一生を誤らんとす。此危急に趣むきて孃を救ひしを誰とかなす。是れなんコンコルドの哲人エモルソンの詩なりけり。是より先き、孃はエモルソンの作を學び、其熱心の弟子にして、稍私淑する所もありしが、此時孃が擇びて坐右の箴とせしは、エモルソンが左の詩句なりけ

り。擇ぶ所を誤らずと云ふべし。孃は流石に賢なりし、

「我は今プラトーと共に祈らなん、
　我をして心に美はしからしめよ、
　我をして實に罪の外一々に、
　なべてのものゝそが中に、
　善を見ることを得せしめよ」。

此外に

「躰軀に容姿ある如く心にも亦た容姿あり、容姿は顔に限るとかは、心の容姿こそ是れにもまして尊ふとけれ」

とは母か平素孃に訓へし思想なり。又た人の能く知る、

「美とは何、只美の爲す行業に外ならす」

とは父か平常最も好める諺なり。又た

「姉上よ、心配は要こそなけれ、任し御身は校中一の美女におわさぬとも、校中一の賢女とは皆の者異口同音に申すなれ、我身は確かに之を聞けり」

とは妹メリーか賢かしくも、常に以て姉を慰むるの言葉なり。是等のもの相待て孃を助けて、遂に能く其苦痛より免れしめたり。既に斯く悟り得ては、前きの痴情に我ながら失笑するの外なかりし。實に弱きは人なりけり。左ればこそ、失望の中に我を慰め、悲痛の中に我を救ふ眞の友の要はあるなれ。

### ◯堀部安兵衞の妻

節婦の有名なる、往古はしばらく置くべし。中古以來、木曾殿の巴、源廷尉の靜、鳥坂の板額、南朝の伊賀局、細川忠興朝臣の室、奥村助右衞門が妻女等、人口に傳へたれば、こゝにはいはず(中略)元祿の頃、赤穗の藩、堀部金丸彌兵衞の妻、娘に向ひて「堀部安兵衞、殿樣の御供にて、入部あらば、婚姻整へんと思ひ居たりしに、不慮の事にて、當地に來らず。定めて、逢ひたかるべし」と問ふ、娘答へて「仰のとほり、夫とは申せども、いまだ逢ひ見ぬ事なれば、一目見たし」といひぬ。「さらば見せて遣はさん間、こゝへ來れ」とて懐劔を扱かんとす。娘、大に驚き「こはいかゞし給ふ」と尋ねければ「今、君家の大變、一統、復讐の事に、寢食を忘れて、大義を企つる。婦女の身といへども、夫をいさめ、或は慰め、肝膽を砕く中に、汝が如き、腹はたのくさりし、娘はいらぬなり。されば、目玉をくりぬきて、江戸へおくり、安兵衞に逢はせんと思ふな



Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

り」といひけるに、そのあやまりをわびて、やう〳〵機嫌直りしとか。程なく、一同、江戸表へ出府せしより、此の娘、刺客となりて、吉良家へ、腰元奉公に出で、、義士打入の夜、上州朝臣の寢所へ手引をして、首尾よく、しるしをあげさせたりとなり。其の時、あやまちて、右手の指、二本おとせりとて、老後までなかりしよし、義士自盡の後、剃髮して名を妙海尼とあらため、墓守となり、藝州より、扶持など給はり、安永年間、九十餘にて、天年を終れり。墓は義士の一階下にあり

## 女學

今後新たに、此欄を設く。女子教育の學理を究め、經驗を尋ね、當路者相ひ詢り、彼此ともに斯道に益せんことを冀ふ。同志の人、願ふらくは、高説を寄せよ。

### ○女子品性修養の學科

左は、金澤女學校々長水蘆幾次郎氏が、近日の就任式に於て演説せられしうちの一段なり。(中宮榮助、記)。

日本女子の固有する品性を修養するには、其修養の材料として先づ第一着に日本歷史を研究せねばならぬ。第二には日本文學を深味せねばならぬ。次にはまた其の品性を錬磨する材料として、畫學や習字や音樂を學ばねばなりませぬ。何となれば日本歷史は日本人固有の品性の發現を以て築かれてある故に。又た日本文學は日本人固有の心情を貫流して居るものである故に。習字畫學音樂の如きは人の氣韻を佝ふするものである故であります。是等の學課は智力に訴へんよりは、寧ろ女子が獨得長所なる感と情とを以て咀嚼理會すべきものであります。併し日本歷史も日本文學も習字も畫學も音樂も、女子の品性を修養する唯だ材料たるに過ぎざるものであります。然らば此等の材料を能く燃やし、能く同化し、能く利用して日本女子の品性を益々高尚ならしめ、愈々圓滿の域に進ましむるものは、何物でありませうか、私しは唯一に基督敎其物であると信じます。深く之を信じます。基督敎は決して或る徒の思惟する如く日本固有の品性を破壞磨滅するものではない。否な寧ろ日本固有の品性をして益々堅固に愈々圓滿にするものであると、幾多の事實上深く是を信じます。昔




Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

レ基督教が英國に這入りては英國固有の品性を高めました。獨逸に這入りては獨逸の品性を鞏固に致しました。佛蘭西に這入りては佛蘭西固有の品性を高めました。然らば日本女子の品性に這入りても其の結果は是等の前例に外れるの恐れはない筈であります。否な確かに其の日本女子の品性を圓滿にすることを信じます。基督てふ完全圓滿なる品性を具ふる神の子に由りて立てられたる基督教主義は、日本固有の思想精神感情等の粹を生長せしめ、又た其の秀と伸暢せしむるものであると確信する故に、余は其の主義に由りて日本女子を敎訓し、之に日本固有の思想も精神も感情も悉く吹き込みて、日本女子らしき眞の女子を敎訓薫陶するの覺悟であります。

## 書架

○月修産婆學

英國倫敦産科婦人科にて名あるカリングウオースが、專ら月修産婆生に對して著述せられたるものを。隱岐敬治郎氏譯して、凌水書屋より發行す。中本六十頁にして、正價八十錢とす。章を九に分ち、姙娠の初徴より、出産後の疾病及び死亡に至るまでを論ず。

○日本のパウロ、日本の獨立女子敎育家

女子敎育と、慈善事業と、社會改良の事業とを調査せんとて、三年前米國に赴かれたる成瀨仁藏氏は、近頃ろ英文の一書を著わして、澤山保羅氏（大阪にて名ありし宣敎師）が傳を記るされたるが、中に云へらく、

澤山氏が女學校は、日本に於ける最初の自給女學校なるべし（傳道會社の補助を受けず、日本の基督信徒が手にて維持するとを言ふ）。大阪にて尤とも舊き尤とも大ひなる女學校を梅花女學校とす。今ま、此校創立の由來を說かんに、一千八百七十八年（明治十一年）の頃、當時大阪にありし二つの敎會（梅本敎會、浪華敎會）は合して只だ六十人の全員ありしほどなるに、玆に自給の女學校を創立せんとを發起し、二教會より金三十圓を集めて則はち着手したり。梅華女學校の名は、二教會の名の一字づゝを集めしなり。明治十一年一月十一日同校の時は、教師日本人二名、米人二名にして、生徒は僅かに十五名なりし。澤山君は、此校の發起人たり、又暫時其校長たりき。澤山君は、又、明治十七年に、新潟にて初めて傳道し、其後、君が一生の元氣たる自給の精神を吹込み、十九年に於て、一の男學校と、一の女學校とを、自給の精神にて創立したり。二年間にして、此女學校は、二千五百圓の建物と五百圓の地面と九十人の女生とを得たり云々。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○井戸ばたの水しめ

仙台東北學院のホウイ氏が新たに設けられたる英文雜誌「ジー、ジヤパン、エバンゼリスト」第一號に、日本生活の瞥見と題する文をかゝげて、第一篇に「井戸ばたの婢」てふ、趣味多き記事を載せたり。中の一節に云へらく、井戸ばたの婢は、日本にて斷えず見る所ろの光景なり、朝早く家人未だ起きざるとき、獨り先づ出でゝ其務を勤むるものは、彼女なり、朝日は其初産の黄金光を彼女が顔ばせに映ず、彼女の腕はつよし、水滿々とみたしたる善き正直なる手桶を提さげたり云々。如此く、觀じ來れば、詩情湧き、戸々のお三は皆な千代女たらんとす。外客中また、當年多情の山陽外史ありと云つべし。

○記者としての婦女子

エミリー、クラウフホルド夫人は、九月の時事評論雜誌に、「女子の職業としての新聞雜誌記者」てふ一文を掲載せしめたり。女子が、此業に適するよしを、初めに論述して、扨て、此業に成功すべき秘訣さま〲を列擧して云く、

第一には、健康と勢氣のさかむならんとなり。

第二には、タイプライチング(ひとり活版)の扱かひ方に熟せんと。校正の勞を省き、植字方の苦情を減ずるは之に及くものなし。

第三には、觀察を濃やかにし、事を執るに時間をキチヨウメンにすると。

第四には、讀書を嗜しなみ、廣く多く讀む事。古來大家の著作者にして、少き時、多讀せざりし人は、極めて稀なり。セビーン夫人より、ゼヲヂ、エリヲトに至るまで皆然り。

第五には、人生の俗事を卑しとせず、之に就きて仔細に親和し熟味する事。セント、ペテロが夢に見し敎へを忘れず、すべて汚れたるものはなしと覺悟すべし。

第六には、道念を潔よくし、事務に感激するの情をするどくなすべし。云々。

○女學雜誌に與ふ

上毛新聞は、十月廿五、六、七の三日間に涉りて、「女學雜誌に與ふ」と云へる長文章を掲げ、曩に、「上毛の存娼論」と題して論述せる本誌の社說一篇を駁したり。大要は、左の一節にてつくすべし、

僕の公娼設置は、存娼論と同じからず、之が設置を云は、之を廢して善後策なきに依るなり。

されど、善后策に奇策あるなし。只だ公娼を廢して密娼を取締り、漸次に社會の下層に隱れしめて以て之を防ぐにあり。此理多年述べつくして復た論ずるまでもなし。實例も亦た內外に滿てり。論者も亦云はずや、

幸なる哉、警察は能く善を容れ嚴寧ろ酷に飲食店を取締り終には飲食店密娼の其嚴に堪へずして廢業し又は逃亡するものを生じ、今や彼等の家内は秋風黃落寂として一の客だになきに至れり、加ふるに先日群馬縣令四十二號を以て飲食取締規則の改正あり、屑一層に頽俗征討の功を奏して今日は漸やく其三一許を淸ふするに至れり。

密娼取締の行はれべきとは、論者既に如此く認識せり。然らば、何を苦しみて又々公娼を置かんとはなすや。密娼取締の第一着は、公娼廢止にあり。公娼を廢せずして密娼を廢せんとするは、强盜を公許して、竊盜を禁ずるに似たり。百年河淸を待ちて効ありとも、豈に斯る迂策によりて矯風の功を遂ぐるとを得んや。論者云く、

僕は爾來密賣淫及び之を弄したる者の原籍住所氏名年齡を帋上に明記して之を鋒誅し既行者をして心に慚愧せしめ、未行者をして心に此暴露を恐れて失足なからしめたり。

之れ大ひによし。左れば、此同手段を公娼の上に行はんには、一層の効驗あらん。公娼を弄ぶものを認許しつゝ、密娼に遊ぶものゝみを耻じしめんとするは、事義の本末を誤まれり。吾黨は、此の熱心なる「淫風矯正軍」が、何ゆへ先づ公娼の醜を認ざるやを奇しむ。公然の醜は、密醜の醜よりも醜なり。

上毛廢娼運動の爲に、有志者の聘に應じ、江原素六、三宅雄二郎、の二氏及び編者は、明十二日前橋に趣かんとす。

## 海外

### 七十二の老嫗、大博覽會場に毛糸を紡ぐ

紐育の片隅に生れて、一村里外に足を入しとなき老婦、此度シカゴ大博覽會に行きて見ばやと思ひ立ち、朋友に謀りたれど、誰一人相談に應ずる人なかりしが、過る四月些少の金子を借て、シカゴ府に至り、さる人の世話に依、一週一二



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の暇を貰ふ約束にて、漸く奉公仕したり。さて或日博覽會場に至りて、米國古代家廷の有樣を摸造したる邊を巡覽し偶然、毛糸の紡績車に眼を止め、懷舊の念禁ずる能はず再思する暇もなく、近づきて、紡車を廻し、糸をとり始めたり。取締りの婦人、老婦を認め、詰責すると思の外、其まゝ場内に雇ひ入るゝ約を結び、老婦は當日より、場内數万の參觀者に昔時の紡績術を示し居るといふ。好奇心深き米國人、此老婦を顧る者多く、老婦は己が寫眞を鬻ぎたる儲けは有り、報酬も充分にて、大悅びの由、幸福なる婆といふべし。

一人は盲人、一人は女子

同じく紐育州、ポルチモアの法律學校に於て、去九月卒業式を營みたり。當日五十名の卒業生中にて、第一の名譽を擔ひたるは、盲目の男子にして、第二席にはホーゲン孃とて卅五才の婦人座したりと。

非凡なる視力

米國主府、ワシントンなる遞信省に雇れたるコリンスといへる婦人は不分明の宿處、姓名を讀みあて、考へ當てる不思議なる熟練を有する由。每年當省にて扱かふ五十万以上の不明の表書の最も困難なるは總て此婦人の手に渡り、百に九十五までは滯りなく配達する運に至る由なり。此婦人内外國の市名、町名を一々記憶し、四五年前、難船せし、オレゴニ號の郵便物が殆んど滯りなく配達せられしなどは、全く此婦人の技倆なりと傳ふ。

皇女大博覽會を觀る

ペヴァリヤの皇女、テレサ内親王、此頃大博覽會を訪ひ玉へり、皇女は御齡卅五才にして、未婚の由。歐洲には名高き御方なれど、世界を漫遊さるゝに侍女一人より他に從者を伴ひ玉はず、シカゴ府に御滯在中も、四五人を除きては誰も其人の高位を知るものなかりし由。著者としても可なり名あり且つ其世界漫遊も至つて廣しといふ。

猫專門の閨秀畵伯

オランダの畵師ロンチル夫人は猫專門の畵師なり、大博覽會を觀る人は其畵ける處に多く目を注ぐべし。




Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 時報

## ◎學校

●高等女學校補助金　廣島高等女學校は崇德教社より年々二百四十圓の補助を受け來りし處來年度より規模を擴張し大に學校の隆盛を計らんと本年の崇德教社通常會に九百余圓の補助を請求し頻りに運動し居りしが議會は紛論の末原案を削減し五百圓を補助して暫く其結果を見然る後其効力如何に由て更らに增額することゝなしたりと云ふ知らず該校關係者五百金の補助をして其効力を顯はし得るや（廣島、同愛新聞）

## ◎集會

●婦人矯風會員の建白と請願　國會員は總理大臣及び外務大臣に向て在外賣淫婦取締法制定に關する建白を又第五議會の開會に際し貴衆兩院に向て民刑兩法中改正追加の件を請願せんとて目下調印を求めつゝあり

●第二回頌榮女學校同窓會　去る廿八日午前九時芝白金頌榮女學校講堂に開き參會するもの七十有餘名、女子教育の振興に關し二三の講話の後茶話會に移り講談數番の餘興ありて散會せしは午後五時頃なりき

●婦人慈善會　大阪婦人慈善會は例年當博物場内美術館にて開會し賣品を並列して入場者を捕へ否應云はさず品物を買はせる傾きありしが夫れにては客の迷惑を來す嫌もあれば本年は其弊習を廢し來る十二十三の兩日中之島壹丁目土居通夫氏の邸にて開會し物品販賣等はせず他の方法にて寄附金を募る筈なりといふ（大坂朝日新聞）

●土佐婦人同志會　今度標題の如き會を設立するとの風說あり同會の組織を聞くに各學校職員及び有志者をして師範學校にて音樂の練習をなさしめ或は各學校の唱歌教授法に就き批評し又は程度に就て研究する等を目的とし其他新作にかゝる優美なる改良唱歌は會員互ひに練習し追々は割烹調理法教授場を設け家政に缺くべからざる事をも研究するやに聞き込みしが是の擧の贊成を縣知事書記官參事官或は學務課其他有志者に乞はんと目下發起者は協議中なる由云々（高知日報）

## ◎風紀

●田沼山梨縣知事　今回山梨縣知事が縣令第四十八號を發して從來甲府の一隅に沒却せられ居たる醜業を公然遊廓の稱を以て甲府市中に之を許可し市參事會の難問、市民の大反對にも拘らず猶ほ悛むる所なきより同地の人々就中青年社會をして非常に激昂せしめしと其の間には勸誘收賄などの風說さへ惹起し實に紛々たることゝなりと（國民新聞）

●妾宅税と婚姻税　地方には間々奇妙不思議なる決議をなす事あり此程越後高田なる某區會にては妾を蓄ふるは贅澤なれば之に課税することこそ好かるべけれとて遂に妾宅に五倍の税を課すべしとの議起り多數にて可決せりといひ又兵庫縣武庫郡西宮町近傍の某村にては村民中結婚の屆出を爲すときは婚姻税と稱へ三十錢より三圓までの税金を身分に應じて村長より徵收する慣例あり其方法は婚禮の當夜村長自ら其席に臨むを待受けて婿家より税金の一封を村長の前に捧呈し村長之を受納せば直ちに三々九度の杯をなすことを得るも若し受納せざる時は式を擧ぐること能はず又た此税金は婚姻三度に及ぶまで徵收せられ四度目よりは免税の規定なりと而して此も亦村會の決議に基くものなりと（讀賣新聞）

●奇怪なる結社　河內國河內郡の某村に在り、小田桂助なる者を社長とし、其規則は

社員は社員外の人と交際せざる事

小田家の女は共同の妻たり男は共同の夫たるべき事

小田家の女を他家に嫁し又た他家より娶るを禁ず

（國民新聞）

●茨城縣水戸市　中に妓樓を設置せんと頻りに奔走するものありと、また設置の場所は常磐村地內と定まりたる由、なげかわしき事ならずや、

●八王子　に於ても遊廓移轉地問題にていろ〳〵の說あり、結局町會議員中には吉原の如く一つ離して設置せしおかんとの考にて去る二十七日夜の町會は本案を議にかけたるのみにて決議に至らず次會におひて何れにか決定する由、遊廓に關する問題所々に起り宮城、秋田、山梨、上毛、茨城、八王子等未だ決定せられず何れも社會改良家、經世家の注目すべき事なり

## ◎片々

●貞婦　福岡縣早良郡樋井川村大字田島平井ヤス子は良人清氏死亡後十數年來常に貞節を守り能く舅姑に事へ殊に病躰の舅を懇切に看護し且つ子女の教育に注意する等操行奇特なりとて今回其筋より賞として金十圓下賜せられたりと（日本教育新聞）

●献納品百數十點　曩に北條侍從が　聖意を奉して共立女子職業學校を一覽したる際生徒の製作品を差出すべき旨御沙汰ありたるに付同校にては其旨を拜承し日日生徒をして製作に努め居りしが漸く出來したるに付今五日造花、刺繡、裁縫、圖畵の四科にて凡そ百數十點を宮內省に献納するよし



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

天下義俠ノ兄姉ニ哀訴ス　我佐賀縣内ハ米穀ヲ以テ産ヲナスノ地ニシテ稻作ノ豐歉ハ能ク全縣内ノ盛衰ヲナスヤ大ナリ然ルニ今年ノ夏降雨殆ンド絶ヘ灌漑不足シテ爲メニ莫大ノ損害ヲ蒙レリ加之氣候不順ノ爲メ螟蟲發生シ尙一層ノ害ヲ逞フシ之ガ爲メ日夜汗流刻苦只管驅除ニ力ヲ盡スノ折柄剩ヘ時ナラヌ霖雨ノ爲メ彼ノ怖ルベキ浮塵子俄ニ發生シ忽チニ繁殖シテ將ニ登ラントスルノ株ヲ枯シ而シテ螟蟲ハ又其根ヲ蝕ス其傷害ノ迅烈ナルヤ數時或ハ十數時間ニシテ若々トシテ波ウテルノ滿田唯ダ枯幹荒涼ノ跡ヲ留ムルノミ其蔓延ノ急激ナルヤ驅除豫防ノ手段ヤ及ブ所ニアラザリキ故ニ是ニ伴フテ勢ヒ米價ノ暴騰ヲ來セリ故ニ資産アル者ハ之ヲ失ヒ而シテ産ナキ者ハ旦夕ノ烟ヲ斷ツノ境界ニ陷レリ可敬ノ双老可憐ノ妻子餓テ一飯ヲ得ズ壯丁獨リ空ク血涙ヲ絞ル之ガ救濟ノ爲メニ二三慈善者ノ俠行アルモ僅カニ九牛ノ一毛ノミ奈何トモスルヿ雖シ是實ニ我佐賀管内ニ於ケル細民ノ慘況ナリキ

此痛ムベキ凶歉ニ加フルニ未曾有ノ風災ヲ以テス此風災ハ細民ヲ驅リテ慘憺ノ境ニ陷擠シタリ十四日ヨリ十五日ニ亘リテ吹キ荒メル北風ハ猛烈ヲ極メ民屋堂宇ヲ倒シ人畜ヲ死傷スルノ酷ダ大ナリキ試ニ其概略ヲ掲グレバ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 民家全倒 | 五千〇十一軒 | 壓死人 | 十九人 |
| 仝　半倒 | 三千八百七十二軒 | 傷者 | 四十一人 |

是レ尙慘ナリ然レトモ個ハ唯風害ノ爲メノミ之ニ加フルニ螟虫等ノ侵傷ヲ脫シテ漸ク取留メタル稻作ハ此大風ニ殆ンド掃蕩サレテ僅カニ一小部分ヲ殘セルノミ而シテ其留メタルモノハ破壞荒凉ノ田畝ノミ物價高騰ノミ細民菜色ノミ縣下蟲害ト風災トニテ破傷セラルヽ田畠三萬七千〇六十一町九反餘其收獲ヲ概算スレバ莫大ノ損失トナル豈是レノミナランヤ今回ノ風伯ハ其暴威ヲ縣下沿海ノ漁夫ニマデ逞フセリ玆ニ漂流漁民統計ノ一班ヲ掲テ高覽ニ供スレバ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 漂流ノ人數 | 八百廿三人 | 全溺死 | 四十四人 |
| 生死不明 | 百廿八人 | 難破船 | 二百六十八隻 |

此八百數十人ハ近海沿岸ニ漂着セルヲ搜索救還セル者ニシテ其一家ノ生命ト賴ム漁具一切ハ漂失破壞シメルナリ故ニ九死ヲ脫シ生キテ還ルヲ相喜ビシ者モ悉ク其資本ヲ失ッテ忽チ相語ノ泣ニ更ソルニ凍餓ノ涙ヲ以テス而シテ其死者或ハ生死不明者ノ双老妻子ハ何ノ益モナケレ𪜈空ク天ニ呼ハリ地ニ叫號ブ嗟々慘ナラズヤ我儕親ク之ヲ見聞シ覺ヘズ斷腸ノ情ヲ催フセリ此漁民ノ中一家ノ壯丁悉ク死シテ老弱ノ遺ルアリ杖柱トモ賴ム父兄ノ生死不明ニシテ或ハ老幼ノ暗涙ヲ飮ムアリテ共ニ凍餓ノ悲域ニ沈ム其實況ノ無殘ナル豈拙文ノ能ク描寫シ得ル所ナランヤ唯其萬一ヲ記スルノミ這般ノ災害タルヤ既ニ畏クモ叡聞ニ達シ兩陛下ヨリ救恤金ヲ辱フスルニ至ル義俠ノ愛兄姉之ヲ察セヨ

右ハ佐賀全縣内ニ於ケル蟲害ト風災トノ現況ナリ世ノ慈善家ハ其義俠ノ誠ヨリ官廳ハ其職守ヨリシテ救濟ニ盡スト雖𪜈尙遺憾多シ我儕ハ基督信者ノ本分トシテ又兄弟同胞ノ情誼トシテ其絶痛絶苦ヲ傍觀スルニ忍ビズ故ニ救濟ノ爲メ奮テ其分ヲ盡サント欲ス然ルニ奈何セン人尠ク資微ニシテ空シク同情ノ切ナルヲ感ズルノミナルヲ故ニ今敢テ天下博愛大俠ノ兄姉ノ補助ヲ仰ギ此究苦無告ノ人々ヲ救ヒ併セテ吾儕微衷ノ満足ヲ求メントス願クハ金圓ナリ物品ナリ投ジテ以テ吾儕ヲシテ救濟ノ誼ヲ全フセシメヨ吾儕資力乏ケレ𪜈兄姉ノ義捐セル淨財ヲ以テ奏功ヲ圖ルニ於テハ敢テ全力ヲ盡サントス今發起人一同泣血以テ慈眼愛腸ノ兄姉ニ訴フ願クハ吾儕ノ微衷ト究民ノ狀情トヲ察シテ憐ム所アレ切ニ願フ

明治廿六年十月

發起人　村田虎吉郎　牛島林太郎
　　　　石井令治　犬塚義信
　　　　相良周巖　吉武五右工門
　　　　山内量平

追白金品等御送附之節ハ佐賀市松原町七十八番地佐賀縣罹災者救濟事務所ヘ宛御振込被下度候

義捐者ノ芳名及ビ決算ハ新紙ヲ以テ廣告可仕候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隔週土曜日發

# 隔週評論發行

白表女學雜誌改題

## 第十六號要目

**講壇**

秋夜感（しのぶ）

教會論（下）

改良及革新

（四）會員銘々一事業を擔當する事

（五）教會堂建築法を改むべき事

**時事**

豫審判事婦女子を裸躰にせり

錦織を憫れみ相馬家令扶を難ず

辻伊澤の二氏に勸告す

福澤先生の眞面目

**文學評論**

一夕觀（透谷）三則

〔文界時評〕

東西の厭世主義

亡羊子が小說不振因緣論

| 本誌代價 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 一冊 | 金六錢 | | 郵税 | 金五厘 |
| 六冊 | 前金 | 三十五錢 | 府外 | 三十八錢 |
| 十三冊（半年） | 同 | 七十三錢 | 同 | 七十八錢 |
| 廿六冊（一年） | 同 | 一圓三十錢 | 同 | 一圓四十三錢 |

發賣所 女學雜誌社書店



明治二十六年十一月一日發兌

# 幼學生

## 第壹號要目

◎小楠公歌を如意輪堂の壁に題する圖（藤島華仙筆石版彩色刷）

●學びのいとぐち

◎幼學生發行の趣旨……柏軒子

◎幼學生の誕生を祝す……佐々木信綱

◎日本男兒（上）……

●智惠のくら

◎食人國……不二山人

◎いろ〱の力……水哉子

◎作文の手びき……木公道人

●はなしのたね

◎桃太郎の寓意……

◎熊澤了介……圖南迂人

●筆のはなくらべ（懸賞披露）

◎楠正行論……

◎友人の海軍水兵に赴くを送る文……

◎其他寄書十數項……

●おなぐさみ

◎鷄鵡返し大岡裁判……桃川如燕

◎近眼……◎古物展覽會（新案考物）……

世の中の出來ごと

◎今日このごろ外十數項……

| 本誌定價 | | |
|---|---|---|
| 冊數 | 定價前金 | 定價郵税共 |
| 一冊 | 金貳錢 | 金貳錢五厘 |
| 十二冊（半ヶ年分） | 金貳拾貳錢 | 金貳拾六錢 |
| 廿四冊（一ヶ年分） | 金四拾貳錢 | 金五拾四錢 |

賣捌所 神田表神保町 女學雜誌社書店


Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

[illegible]三君　高橋要亮君同著

# 增訂三版　經濟秘法　廢物利用　上下合本

正價金三十五錢　郵税金四錢

目次

魚類の廢物より石鹸を製する事
藻を以て紙を製する事
魚類にて紙を製する事
鯨の上肉より蠟を採る事
海草より砂糖を採製する事
牛馬豕の血液より大利を得る事
馬肉を食用にすべき事
牛の毛用ひ方種々ある事
松樹よりテレビン油を採製する事
松の木にて綿又は布を造る事
茗荷にて糸を製する新法の事
蒲草より綿を採る事
桑の皮より綿を採る事
玉蜀黍の莖より糖密を製する事
松葉を布團綿に製する事
甘藷は用ひ方にて大利を得べき事
石決明、タガヒ等の介殼を釦鈕となす事
澁柿を用て砂糖を製する事
石を煮て和らかにて器物を造る事
青竹を煮て白色にする事
角を煮て糊餅の如く之を器に作る事
玉蜀黍の莖をコルクに代用する事
槲實にて食物を製する事
食物を新鮮の儘に貯へ置く事
牛肉鳥肉を柔軟に煮る事

共他百六拾一件

發賣所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

專賣特許　商標

TOKIO HANANOYA JAPAN

今般專賣特許
且つ宮内省必要品
宮内省御用

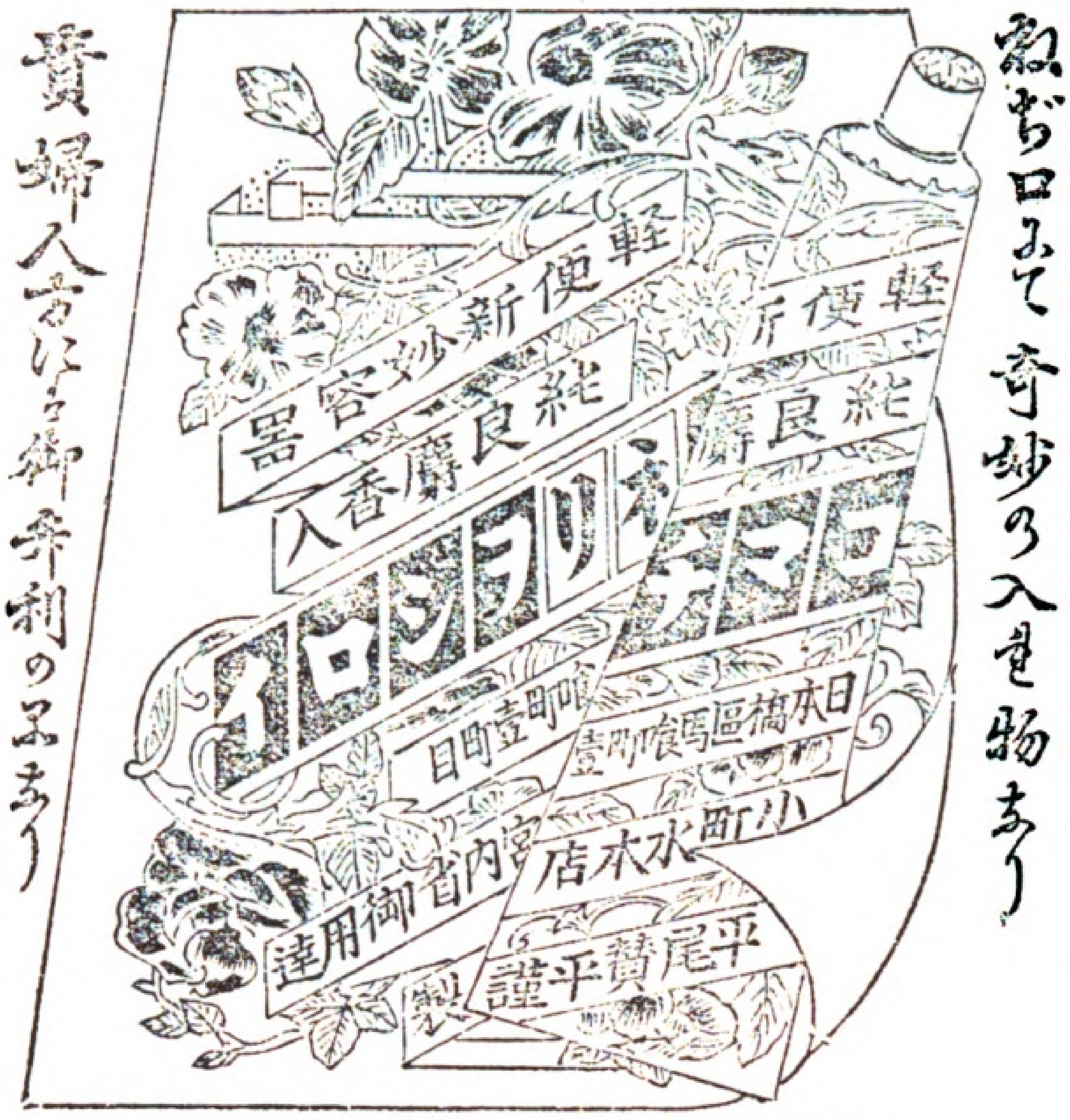
大取次　日本橋區通旅籠町二番地

定價　十五錢　五錢

稻葉庄兵衛

御おしろいたし元祖

純良麝香入新發明ねぢ口輕便器物入なるを以て貴婦人に必要の品なり




東京馬喰町一丁目（電話六五二番）

有名賣藥化粧品類問屋宮内省御用達

岳陽堂　平尾賛平


# 文學界

## 第拾號目次


雨の夜丈うれ室　秋香女

月に瞑して塙撿校を追ふ　天知

新方丈の寶　殘花

漫罵　電影

なりひさご（二）　むせい

あだし野　百合園

哀女　魚ぬの

茶のけふり　古藤庵

我宿の花　無名氏

紅葉

時文

早稻田文學。日本評論のゴヱテ論。即興詩人。基督敎文學。秋風寒し。賤機。夜嵐。塙園右衞門。依緑漫錄。塵影。



| 定價 | 東京市内 | 市外郵税 |
|---|---|---|
| 一冊 | 六錢 | 六錢五厘 |
| 六冊 | 卅三錢 | 三十六錢 |
| 十二冊 | 六十錢 | 六十六錢 |

發行所

東京市神田區表神保町六番地

文學界雜誌社



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 看護婦生徒募集廣告

來明治廿七年三月看護婦生徒募集候ニ付志望ノ者ハ本月卅日迄ニ南豐島郡下澁谷村日本赤十字社病院ヘ申込ムヘシ
但年齢二十歳以上三十歳以下身幹四尺六寸以上ニシテ健康獨身ノ者ニ限ル猶規則並ニ申込手續ハ病院ニ就テ承合スヘシ

明治廿六年十一月

**日本赤十字社**

村木經策君著

## 家政要旨

正價金五錢
郵税金二錢

本書は明治女學校か「サンマー、スクール」を鎌倉に開きたる際、家政學を、生徒諸孃等に講述せしを筆記したるものにして他日幸福なる「ホーム」を作るの時に至りて益する所なくんはあらず因て其益する所一部少數の人に限るを憾み之を世上一般の姉妹諸孃に擴布せんと欲して出版を企てたるものなり。

**發行所** 東京神田表神保町六番地 **女學雜誌社書店**

多田親愛先生書　鈴木弘恭大人編

●頗美本上製全一冊
●正價金二十五錢
●郵送料金四錢
●郵券代用一割増
●改正書目出來ニ付御入用ナレバ郵券二錢御送附ヲ乞フ

**發行所** 東京神田駿河臺御茶水橋南詰 **敬文堂書店**


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

內務省免許 藥劑師 瀨戸末吉先生藥品發明
農商務省前分析課長工學士 高峯讓吉先生試驗證明
東京愛生病院副院長 中村重治先生實驗證明
農商務省技師工學士 大久保親誠先生實驗證明
帝國大學教授理學博士ドクトル 飯嶋魁先生實驗賞狀
同撰範藥局試驗員藥學士 古屋恒次郎先生實驗賞狀
同教授醫學博士 佐藤三吉先生實驗贊評
此の他各大家の賞狀あるも略す

（登錄）花王石鹼

第一 色を白くし美艶なり はだとにきび●そばかす●はたけ●あせぼ●たむしの類●ひゞ●しもやけ●はだのあれ總て皮膚病一切に妙なり

定價 一個金十二錢
桐箱三個入卅五錢

一花王石鹼は皮膚の美艶を增し且衛生上大に特効あるは已に需用者諸君の賞贊の如し委敷は本品に能本を附す

本品は帝國醫科大學○海陸軍其他各病院の御用を命せられ殊に內外需用諸君の高評を博したるは偶然に非ず是れ全く無比の良石鹼にして衛生上欠くべからざるの所以なり然して販路の盛大なるが故に近來奸商等粗製品に類似の効能を附し又甚敷は同音遊字或は桐箱貼紙能本等の躰裁に至る迄摸造し愛顧諸君を瞞着せんとする者續々有之に付眞正の「花王石鹼」登錄商標及長瀨富郎名義に御注目の上御購求を希ふ

製造發賣本舖 東京馬喰町二丁目洋物店（電話番號九百二十二番） 長瀨富郎 敬白

市內は勿論全國到所有名の和洋小間物店及び賣藥店に大販賣所有之候間御最寄にて御取次を乞


本社移轉

本社及編輯局 東京王子村下十條八百五十一番地

女學雜誌評論發賣所 女學雜誌社書店 東京神田區表神保町六番地


明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年十一月十日印刷
明治廿六年十一月十一日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝牛込區市ヶ谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光

發行所 東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地 女學雜誌社
印刷所 仝牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工場（電話十九番）


Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY